

平成の締めくくり 新しい年を迎えて  
～2020 年度からの教育～

校長 川上 治男

明けましておめでとうございます。平成最後のお正月と言うことで、年末からの放送番組では平成 30 年間の懐かしいニュースや画像が流れることが多かったように感じます。立ち止まって振り返ることは、日々の慌ただしさの中で忘れかけていた大切なことを思い出させてくれます。今年一年が皆様にとって実り多き年になりますようお祈り申し上げます。子どもたちがしっかり学年での学習内容を理解できるよう、そして、子ども自身が自分の成長が感じられるよう、職員一同力を合わせて努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、学校教育に目を向けると 2020 年度から新しい学習指導要領に基づく教育が始まります。（学習指導要領は、全国のどの地域で教育を受けても同じレベルで受けられるようにするために、国が学校の教育内容（カリキュラム）を編成するために定めている基準のことで、10 年ごとに改訂されます。）新しい学習指導要領の基本的なポイントについてお知らせします。

**1 未来志向のつながりの重視**

来たるべき 2030 年頃の社会を見据えながら、深化した人工知能が大きな役割を果たすような予測困難な時代を、子どもたちが主体的に生きていけるようにすることを狙いとしています。「社会に開かれた教育課程」というキーワードも使われています。

**2 「教科中心」から「資質・能力の育成」へ**

これからの未来を生き抜くためには、どれだけたくさんの知識を持っていても役に立たない可能性があります。国語、算数などの各教科をばらばらに学んでも総合的な「生きる力」は身に付かないのではないかとということが考えられます。どのような子どもに育てたいのか（育成すべき資質・能力）を明らかにし、それを実現するためにどんな教育内容を展開していくのかを考えていく必要があります。教科書をページどおりにただ教えていくのではなく、教育の目的を明確にし、各教科・総合的な学習の時間・道徳・行事などを関連させながら柔軟に指導していくことが求められます。

**3 主体的・対話的で深い学びの実現**

予測困難な時代を生き抜くためには、「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように問題解決できるか」が大切になってきます。そこで、いつも興味関心を持って進んで学ぶ子ども、一人ではなく仲間や周囲の人たちと対話しながら学ぶ子ども、知っていることをいろいろと関連付けて自分なりの考えを生み出しながら深く学んでいく子どもの育成を目指していくこととなります。

そのためには、「自ら学び続ける力」を身に付けることが大切です。「いい学校に入ること」はもはやゴールとは言えません。これからの時代は、「大人になってからも一生学ぶこと」が求められます。「自ら学び続ける力」です。自分から情報を集め、自分で考え、仲間と共に問題に取り組み、世の中に新しい価値を生み出していく、そういった人材が求められる時代です。また、自信を持って積極的にいろいろなことに取り組む経験が必要です。【積極性→成果→自信（→積極性・・・）】といったサイクルを回し続けることが大切です。このサイクルに乗せるためには、大人の関わりが大きな鍵を握ります。ポイントは 2 つ。1 つは「ほめ方」。子どもが何かをした「結果」ではなく、「プロセス」をほめることです。たとえ失敗しても、努力に目を向けてほめるようにします。逆に、大人が結果ばかりをほめていると、結果だけを気にする子どもになります。もう 1 つは「自己決定」のサポートです。子どもが自分で決める機会を設ける必要があります。逆に大人が「こうしなさい」と指示を与え続けていると、指示を待つ子どもになってしまいます。プロセスをほめ、自己決定をサポートする。生活・遊び・学びなどあらゆる場面で、この姿勢をもつことが大切です。

## 道祖神

1月14日（月）は天候にも恵まれ、恒例の道祖神の祭事が行われました。関係する地区の子どもたちは、役割を果たすべく、「おおみき かんぜん みきかんぜん～」と声を出しながら各家庭を回っていました。このような伝統行事に参加することを通して、地域のよさを感じ、地域への愛情が強くなることを願っています。



## 学習参観

1月17日（木）に授業参観が行われました。今回は全校で「道徳」の授業を公開しました。「道徳」が特別の教科となり、「考え、議論する」授業が大切にされています。自分の考えをもち、友達と意見を交流する中で、自分の考えに自信をもったり、友達の考えを取り入れたりしてよりよい価値観を自分なりに捉えていきます。ご多用の中、多くの保護者の皆様から参観いただきました。ありがとうございました。



## ご協力いただき、ありがとうございます

1月17日（木）の授業参観後に「民生委員・少年補導員との懇談会」「学校関係者評価委員会」「いじめ・不登校等対策実行委員会」が行われました。それぞれの会議では、河原田小学校の取組や子どもの姿について、忌憚のないご意見をいただきました。会議を通して、地域の方々から応援していただいていることを実感することができました。今後はいただいたご意見をもとに、来年度の教育課程編成をしてまいります。



## 子どもたちの活躍

新潟教育アート展	奨励賞	1年 小田里穂 佐野楓花 本間琉翔
----------	-----	-------------------